

全仏

ZENBUTSU



481

仏暦2545年 9月 (2002年)

財団法人 全日本仏教会

JAPAN BUDDHIST FEDERATION



比叡山宗教サミット15周年記念・「平和への祈りとイスラムとの対話」
(関連記事5頁)

全日本仏教会教化セミナー(5頁参照)

「公益法人見直しの中で

いま、お寺の在り方を考える」

10月3日 午後2:00~

本願寺築地別院講堂

理事会開催

世界平和のための

諸宗教協力会議

理事會開催

去る七月二十五日午後二時より、東京グランドホテルで理事会が開催された。三帰依文唱和の後、森和久理事長を議長に、加藤俊雄・横山敏明の両師を議事録署名人に選出し、議事に入った。

議案第一号「財政検討委員会」設置について承認を求めるとの件

森理事長より上程。櫻井英幸総務部長及び宮川宏生財務部長より説明。協議の後、円滑な組織運営の検討を視野に入れた「財政検討委員会」の設置が承認された。

協議事項一「本会評議員数について」

櫻井総務部長が、前期より懸案の評議員数削減の必要性を説明。協議の後、組織全体の見直しと機構改革も含めた中で、継続的に検討する事となった。

協議事項二「会議、委員会の公開の件」

小林正道事務総長が、会議、委員会公開の必要性を説明。協議の後、当面、記者会見などで対応し、公開の可能性について継続的に検討する事となった。

協議事項三「副会長選任の件」

櫻井総務部長が、二條恭仁子副会長ご逝去にともない、会務の潤滑な運営のため、現在三名の副会長に加え、新たに選任する必要性を説明した。推戴委員会を早急に立ち上げ、副

会長を増員することが確認された。

報告事項

一、臨済宗天龍寺派退会の件

六月六日付で、臨済宗天龍寺派より退会届が提出された。六月二十六日、小林事務総長が梅承昭臨済宗天龍寺派総長と面談した結果、脱会後も情報交換など関係を維持していくという方向が確認された。

二、ルンビニー報告

渡邊宗徹国際文化部長が、マヤ堂建築をネパールが独自に進めている現況を説明。本会としては出土遺物の返還、考古学調査報告書刊行などを急ぐ旨、報告された。

三、第二十二回WFB世界大会について

渡邊国際文化部長より、十二月九日〜十二日、マレーシアで開催される旨報告。櫻井総務部長が、開会式（十二月十日）に合わせた代表団によるツアーを募集する旨、報告した。

四、日本仏教紹介本(英文版)作成予定の件

渡邊国際文化部長より、日本仏教を英文で紹介する書籍を、本会の国際委員会を中心として作成する検討に入りたい旨、報告された。

五、事務総局各部報告

以下の項目等について担当部長から報告され、協力が要請された。

①厚生労働省による千鳥ヶ淵戦没者墓苑の改

修ヒアリングに、櫻井総務部長（日宗連幹事）が出席、三案が示されたことを報告。

②平成十四年度宗教法人実務担当者研修会（文化庁主催）への参加協力が要請された。

③十一月八日、同和研修会を真宗大谷派真宗本廟視聴覚ホールで開催。参加協力を依頼。

④第二十二回WFB世界大会参加ツアーの募集記事、並びに、今後継続的に、全仏関連の記事を加盟団体機関誌に掲載して頂きたい旨、依頼がなされた。

⑤全仏ホームページ・メールアドレス変更（本誌別掲記事参照）

⑥文化庁からの、公益法人を対象にしたホームページ上での情報公開要請について説明。

⑦都道府県仏教会代表者会議（十月三十一時〜一時半）、教化セミナー（同日、二時〜四時半）が本願寺築地別院で開催。参加依頼

⑧七月二十三日の、第三回信教の自由に関する委員会の結果、仏教タイムス社からの靖国神社と戦没者追悼に関するアンケート、厚生労働省による千鳥ヶ淵戦没者墓苑改修に関する意見聴取に関し、検討中のため具体的な回答を差し控える旨、それぞれ回答した。

⑨（財）国際仏教興隆協会より、印度山日本寺の護持会員拡充の依頼があり、協力が要請された。

⑩現在立ち上げが進む仏教NGOネットワークの現状を説明。今後の本会としての関わり方について、検討の必要性が要望された。

⑪

①六月三日、東京で行われた「スリランカ四法王共同声明記者会見」と、「スリランカ・日本の宗教者による和解と平和に関する意見交換会」に森理事長、小林事務総長が出席。

スリランカ和平への支援が表明された。

⑫十一月七～九日、バチカンで開催される「カトリック医療施設のアイデンティティー」の講師に、本人・宗派承認を得て、田中雅博師(真言宗豊山派僧侶・医師)を推挙した。

⑬九月二十九日～十月三日、東京・立正佼成会本部で開催される、「第三回仏教徒・キリスト教徒対話集会」への出席依頼が、ローマ教皇庁より本会理事長あて送付された。対応を国際委員会と事務局で検討中。

同和委員会

七月三十日午後一時三十分、明照会館会議室で第三回同和委員会が開催された。

小林正道事務総長の挨拶に続き、浄土真宗本願寺派の委員交代に伴い、藤田誓之師に委嘱状が伝達された。

委員会では、第十二回同和推進担当者連絡会の反省、第二十二回同和研修会の企画、差別法戒名・墓石の改正について議論された。

第二十二回同和研修会は、十一月八日(金)、会場を真宗大谷派の真宗本願視聴覚ホール(京都)、講師が桃山学院大学名誉教授の沖

浦和光氏に決定した。

信教の自由に関する委員会

七月二十三日午後一時半より、明照会館会議室で、第三回信教の自由に関する委員会が開催された。小林正道事務総長の挨拶に続き、小山典勇委員長が経過を説明。その後、議事が進められた。

靖国神社問題と、国立戦没者追悼施設(仮称)等の問題に関し、委員長と事務局とで作成した論点と素案について検討が行われた。

その過程で出席委員より、一般・宗教者等の有志が会を作り、国立の追悼施設の設定を具体的に国に働きかけている動向が報告され、国が進める施策に、仏教者の意見が本意と異なる点で利用される懸念が指摘された。

議論の結果、仏教者として、戦没者・戦争被災者を追悼するには、具体的にどういう要件が必要か、政府が計画している新追悼施設の議論のどこが問題なのか、宗教的、政治的両面で配慮すべき点を次回委員会までに委員長、事務局で抽出し、検討を仰ぐことになった。

また、首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請を、今春に続き、首相あて早急に提出することになった。(別掲要請書を八月一日付、首相宛提出した)

首相及び閣僚の靖国神社公式参拝

中止の要請

本会は「靖国神社法案」、首相及び閣僚の「靖国神社公式参拝」に対して、過去二十二回にわたり、反対の意志表明と公式参拝中止の要請を行ってまいりました。

靖国神社は、特定の基準をもって合祀の対象とした戦没者を神霊として祀る神社であり、純然たる宗教施設であることが明白であります。

したがって、一宗教団体である靖国神社に首相及び閣僚が公式参拝することは、どのような形式をとりましても、憲法に定める「信教の自由」「政教分離の原則」に違反することは疑いの余地がありません。

最高裁判所は、靖国神社等への公金支出が、金額の多寡を問わず憲法違反に当たるとい、明確な判断を示しております。

私たちは、戦後五十余年のあいだ日本国民が守り育ててきたこれらの憲法の規定こそが、今日の日本の平和と繁栄の礎となっていることを、改めて確認し伝えていきたいと思っております。

戦没者の追悼は、国家が特定の宗教に関わって行うべきものではなく、各遺族がそれぞれに真実と仰ぐ宗教によってなされるべきものであることは、当然のことです。

私たちは、首相が昨年八月十三日に続き、去る四月二十一日内閣総理大臣として再び靖国神社を参拝されたことに、強い遺憾の意を表すと共に、今後首相及び閣僚が、靖国神社への公式参拝をなされないよう、強く要請いたしますのであります。

二〇〇二年八月一日

財団法人 全日本仏教会

理事長 森 和久

内閣総理大臣

小泉純一郎 殿

総務委員会

七月二十二日午後二時より、明照会館会議室で第二回総務委員会が開催された。

委員会では、

- ①「財政検討委員会」設置並びに、委員選任の件
 - ②本会評議員数について
 - ③本会の広報活動について
 - ④会議、委員会の公開の件
 - ⑤印度山日本寺維持管理の件
 - ⑥仏教NGOネットワークの件
 - ⑦日本仏教紹介本（英文版）作成の件
 - ⑧副会長選任の件
 - ⑨その他
- 実務レベルでの協議・意見交換が行われた。

ルンビニー委員会

七月二十九日午後二時より明照会館会議室において、本年度第三回のルンビニー委員会が開催された。

武田昭英委員長の開会挨拶の後、議事に入った。

現況報告

・発掘遺物管理移管処理は六月下旬に現地に

て作業が開始されたが、ネパール側から新たな資料追加要求がなされたため中断し、これらの準備を行った後で早急に再開することになった。

・現在ネパールのLDTが主体となって建設中のマヤ堂復元工事の進捗状況について、外壁はほぼ完成したが基壇の床が下がり構造上の強度対策が必要となったことに加え、雨期による作業遅延もあり完成予定時期が明確にならないことと、ユネスコ本部が世界遺産としてこの建築について現地査察を実施して評価中であることが報告された。

・ルンビニー委員会顧問の菊池法純師（大谷大学非常勤講師、元ネパール大使館参事官）等より提言があり、世界の仏教徒が違和感なく礼拝できる施設となるよう働きかけを行うことになった。

今後の対応について

・ネパールの政治状況が流動的になってきており、発掘遺物管理移管処理と調査報告書の発刊を急ぐことになった。

・今後の事業の進め方については様々な意見があり引き続き検討することになった。

最後に森理事長の挨拶があり閉会となった。

お願い

本誌発送先変更の場合、事務局迄、ご一報をお願いいたします。

ルンビニー園マヤ堂修復事業

篤志支援者御芳名

(社)全日本仏教婦人連盟様	金、 壹百萬円
法融寺	金、 十万円
法清寺	金、 十万円
光明寺	金、 五十万円
萬福寺	金、 五十万円
照栄院	金、 壹百萬円
龍泉寺	金、 十万円
信松院	金、 十万円
保壽院	金、 十万円
佛教大学 佛教青年会様	金、 壹万円
高福院	金、 壹百萬円
妙高寺	金、 五十万円
慈眼寺	金、 五十万円
慈眼寺	金、 五十万円
西新井大師總持寺 濱野堅照様	金、 五十万円
浄運寺	金、 十万円
長慶寺	金、 十万円
善林寺	金、 十万円
善林寺	金、 十万円
長慶寺	金、 十万円
真野和子様	金、 十万円
水野和子様	金、 十万円
羅漢寺	金、 十万円
圓通寺	金、 十万円
金剛院	金、 十万円
實相寺	金、 十万円
近龍寺	金、 十万円
月鳥テレビ商會様	金、 十万円
立正保元園様	金、 十八萬六千円
全昌院	金、 參萬円
西有寺	金、 老百萬円
明順寺	金、 五十万円
能仁寺	金、 三十万円
西福寺	金、 三十万円
妙本寺	金、 五十万円
豪徳寺	金、 五十万円
法蔵院	金、 老百萬円
杜多徳雄様	金、 老百萬円

※篤志の振込先口座番号（郵便振替）

〇〇一三〇一六一三七六〇〇

加入者名（財）全日本仏教会

ルンビニー園復興協力金と明記下さい

※本件に関するお問い合わせ
全日本仏教会国際文化部
電話 〇三―三四三七―九二七五

仏教NGOネットワーク シンポジウム

七月六日午後二時より、浄土宗大本山増上寺で、「国際協力を促進する仏教ネットワーク」(仏教NGOネットワーク)の設立に向けたシンポジウムが開催された。本会からは、小林正道事務総長が出席した。

シンポジウムでは、袖山榮真浄土宗東京出張所長、本会小林事務総長が挨拶し、仏教NGO団体のネットワーク設立に賛意を述べた。そして、プラ・パイサン・ウィサーロー師(タイ開発僧)と西川潤氏(早稲田大学政治経済学部教授)が基調発題を行い、アユス仏教国際協力ネットワーク、シャンテイ国際ボランティア会、ありがとう基金、一食平和基金の各団体が活動内容等を披露し、互に意見交換した。

仏教NGOネットワークは、秋の設立に向けて、参加団体を募集している。

比叡山宗教サミット十五周年

「平和への祈りとイスラムとの対話集会」

八月三・四日の両日、比叡山宗教サミット十五周年記念「平和への祈りとイスラムとの

対話集会」が、十カ国の宗教者や市民約千三百人が集い、京都で開催された。

本会からは、森和久理事長、櫻井英幸総務部長、江口智流総務部次長、山本観晃同和推進部次長、福田亮二社会部次長が出席した。

三日は午後一時半より、開会式典・シンポジウムが、国立京都国際会館で行われた。開会式典では、実行委員会委員長を務める西郊良光天台宗事務総長が挨拶され、ローマ教皇アズハル総長(イスラム)からのメッセージが披露された。シンポジウムでは、「イスラムとの対話と理解」というテーマで、イスラムの歴史や教えへの理解を深めると共に、日本宗教界が、イスラムと他宗教の架け橋となることを期待された。

また、午後六時より宝ヶ池プリンスホテルにて、海外代表歓迎レセプションが行われた。

四日は、午後三時より比叡山延暦寺根本中堂前にて「平和の祈り」式典が行われた。主催者代表として、渡邊恵進天台座主が挨拶され、仏教・イスラム・ユダヤ教・神社本庁・キリスト教・教派神道・新日本宗教団体連合会等の各代表による、平和の祈りがつづいた。最後に、「宗教間の対話及び相互理解と尊重が平和への出発点であり、神仏の加護のもと、平和な時が訪れんことを願う」という比叡山メッセージを発表し日程を終了した。

全日本仏教会

教化セミナー」案内

テーマ 公益法人見直しの動きの中で

いま、お寺の在り方を考える

…現代の寺院と僧侶は何をすべきか…

日時 十月三日(木)午後二時～四時半

場所 本願寺築地別院「講堂」

東京都中央区築地三十一番一
営団地下鉄日比谷線築地下車

内容 シンポジウム

政府の公益法人改革等の動きの中で、現代のお寺の運営に携わる寺院住職としての在り方、また、一仏教者として、僧侶としての在り方を再考し、問題点を多角的に考察する

パネリスト

中野東禪師 (曹洞宗教化研修所 講師、大正大学講師)

野生司祐宏師 (全国青少年教化協議会事務総長)

長谷川正浩氏 (本会顧問弁護士)

対 象 加盟団体関係者

問い合わせ・申込

全日本仏教会事務局社会部

電話 〇三(三四三七)九二七五

FAX 〇三(三四三七)三二六〇

世界平和のための諸宗教協力会議に出席して

於 バチカン市国 国際委員会委員長 松濤弘道

去る平成十四年六月七日、八日の両日、バチカン市国のローマ教皇庁にて、同庁主催の世界諸宗教協力会議が開かれ、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教、ヒンズー教、シーク教および仏教関係者が一堂に集い、仏教界からは全日本仏教会の要請で小生が参加した。この会議は、一昨年のバチカンで開催された



バチカン市国 ローマ教皇庁にて
(左から、四人目、筆者)

世界宗教会議および今年一月アシジで開催された各宗教合同の平和の祈りの集会を踏まえたもので、宗教が平和に寄与する方策を種々検討し、引き続き作業部会を持つことを約して散会した。

同会議参加者は次の通りである。フランシス・アリンゼ枢機卿、ミカエル・フィッツゼラルド枢機卿(以上、ローマ教皇庁・カトリック教)、テニイ・ピリシモニアン女史(キリスト教世界協議会・プロテスタント教)、アンブロジオ・スベレヒコ神父(ウルバン大学・カトリック教)、ロン・クロニツシ師(ユダヤ教)、モハメッド・サマック師(イスラム教)、アナタナダンダ・ランバチャン教授(ヒンズー教)、チャランジット・シン女史(シーク教)および松濤弘道(全日本仏教会)。会議はまず、各宗教代表者がそれぞれの宗教に依って立つ平和への寄与策を述べた上で、前回のアシジでの「世界平和宣言」に基づき、宗教的精神性の高揚、宗教が政治的紛争に利用されることのないよう教育の徹底、マスコミ対策、各宗教間の確執を除去するための癒しや和解といった問題が終日、討

議され、終わりにあたって次の決議文を採択した。

決議文

「われわれ世界各国から参加した仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教、シーク教の関係者は、六月七、八の両日、バチカン市国において開催した協力会議に出席し、各宗教が和解と平和のためにそれぞれ忌憚のない意見を開陳した。この会議はバチカン教皇庁諸宗教対話評議会のアリンゼ枢機卿が主宰し、去る一月二十四日、アシジにおいて開かれた世界平和の祈りの集会および一九九〇年十月に開かれたバチカンでの世界宗教会議の継続事業として開催したもので、ジュネーブ在のキリスト教世界協議会のメンバーも参加した。われわれこの会議の参加者は共に、各宗教が引き続き、世界的かつ地域的な平和促進のために果たすべき役割を再確認すると共に、宗教関係者が紛争解決と防止のための方策を模索し、その実現のために努力することを約する。また、世界の平和と正義実現のために、宗教が触媒となるべき各宗教の教典の典拠とモデルを提示し、その象徴的行動を模索したい。会議を契機として、更なる作業部会をバチカン当局の協力の下で開催することを協議した。」

バチカン市国・ローマ教皇庁にて

第22回 WFB 世界仏教徒会議 マレーシア大会記念ツアー 参加者募集



WFB

(世界仏教徒連盟)とは

世界各国140地域センターが加盟し、世界の仏教徒との交流と友好親善をはかり、世界平和に貢献することを目的としております。全日本仏教会は、日本の唯一のセンターとして加盟しております。

世界仏教徒会議は、2年に一度開催され各地域センターの活動内容、将来への計画を立てております。

第22回 WFB 世界仏教徒会議が、本年12月9日より、マレーシアのクアラルンプールで開催されます。全日本仏教会では、この大会の記念ツアーに参加される方を募集いたします。参加者は、世界各国代表が一同に集う開会セレモニーに参加を予定しております。

クアラルンプールでは、日本人墓地にて追悼法會を営み、ペナン島に移動し仏教寺院参拝を計画しております。

皆様、是非お誘い合わせのうえ、ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

主 催 財団法人 全日本仏教会
旅行日時 12月8日(日)～13日(金)
5泊6日 成田発
場 所 マレーシア
 クアラルンプール・ペナン島
参加費用 168,000円
定 員 50名 *最少催行人員30名
締め切り 11月7日(木)
旅行会社 株式会社 JTB 団体旅行
 東京中央支店
お問い合わせ・お申し込み

財団法人 全日本仏教会 担当：小島, 江口
 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
 TEL 03(3437)9275 FAX 03(3437)3260

※参加費用には、航空運賃、宿泊料金（2人部屋）、食事料金が含まれております。尚、旅券申請に関する費用、自宅から成田空港までの交通費は、含まれておりません。また、1人部屋ご利用の場合追加料金（¥43,000）・ビジネスクラス利用の場合の追加料金（¥93,000）でご利用になれます。

事務局録事

七月(十一～三十一日)

十六～十九日 天台宗人権啓発講師養成講座出席
十七～十八日 ヒューマンライフセミナー出席

十八日 大谷光昭元会長本葬儀参列

十九日 局内会議

二十二日 総務委員会

二十三日 信教の自由に関する委員会

二十五日 理事会・局内会議

二十六日 壬生台舜元副会長本葬儀参列

法律相談室

二十九日 ルンビニー委員会

二十九・三十日 部落解放基礎講座出席

三十日 同和委員会

第二十七回全国仏教保育大会出席

三十一日 靖国公式参拝中止の要請書提出

八月(一～十一日)

三～四日 比叡山宗教サミット十五周年参列

五日 局内会議

七日 日宗連幹事会出席

日宗連ホームページ開設準備会出席

人事

就任 蘭部栄重 (茨城県仏教会)

退任 猪瀬寶山 (茨城県仏教会)

(財)国際仏教興隆協会

護持委員拡充のお願い

インド・ブッタガヤ印度山日本寺を起点とし、釈尊御成道の聖跡ブッタガヤの復興と仏教の国際興隆を本旨に展開しております。

しかし、当協会設立以来三十五年を経て、活動を支える護持委員が減少しております。

日本仏教超宗派の国際宗教福祉事業の展開という貴重な灯火を未来へとつなぐため護持委員としてご協力賜れば幸いです。

個人会員様 五千元

法人会員様 一万円

お問い合わせ 財団法人 国際仏教興隆協会

電話〇三(三三七一)七六〇八

法律相談室

長谷川正浩弁護士による無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務局(〇三―三四三―七一九二七五)へ事前予約の上おいで下さい。

全仏ホームページアドレス

変更のお知らせ

全日本仏教会のホームページとメールのアドレスが左記の通り変わりました。

ホームページ

<http://www.jbf.ne.jp>

メールアドレス

info@jbf.ne.jp

※各加盟団体等ホームページからのリンク、メールの住所録などの変更、宜しくお願いします。

問い合わせ

全日本仏教会事務局 社会部

電話 〇三―三四三―七一九二七五

戒名・法名リフレット

一部百円。頒布ご希望の方は、FAXまたはハガキで、①氏名、②一般と寺院の別、③希望部数、④住所・郵便番号、連絡先電話番号を明記して本会総務部へお申し込み下さい。(送料・梱包料は別途ご請求。同封の振り込み用紙でお振り込み下さい。)

申込先 東京都港区芝公園四―七―四

明照会館内 全日本仏教会総務部

FAX 〇三―三四三―七一九二七五